

# 史跡保渡田古墳群 八幡塚古墳の保存修理について

## ◎保渡田古墳群の概要

- ・保渡田古墳群は二子山古墳、八幡塚古墳、薬師塚古墳の三基の大型前方後円墳からなる。
- ・5世紀後半から6世紀初頭に築造され、6世紀初頭に発生した榛名山の噴火で火山灰に覆われた。
- ・昭和60年に国指定史跡になり、八幡塚古墳は築造当時の姿に復元整備、二子山古墳は植栽などを活かした修景整備が行われた。薬師塚古墳は、西光寺の境内で、墳頂部には出土した石棺と出土品に由来する薬師堂がある。



令和3(2021)年撮影

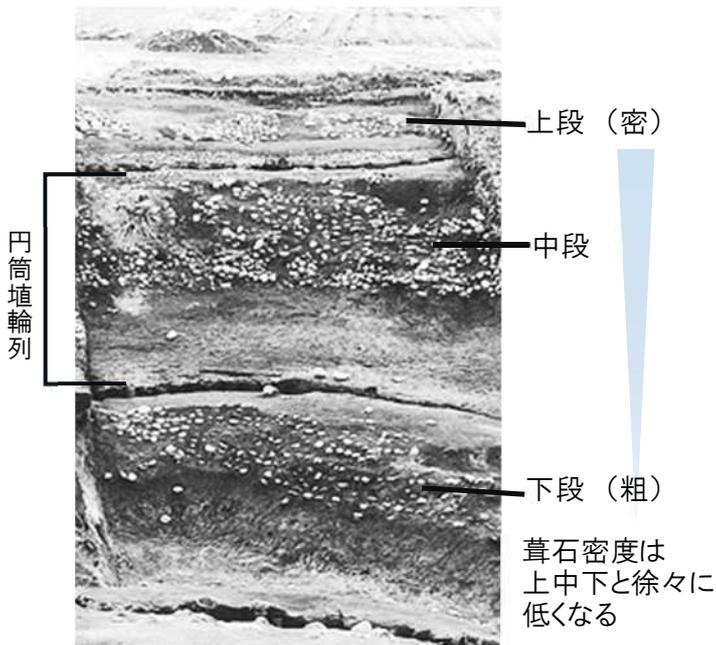
## 1. 八幡塚古墳 発掘調査：平成5(1993)年度～平成9(1997)年度 ※史跡指定後の調査 (史跡指定前:昭和4(1929)年、昭和55(1980)年度、昭和59(1984)年度)

### ◎八幡塚古墳の発掘成果

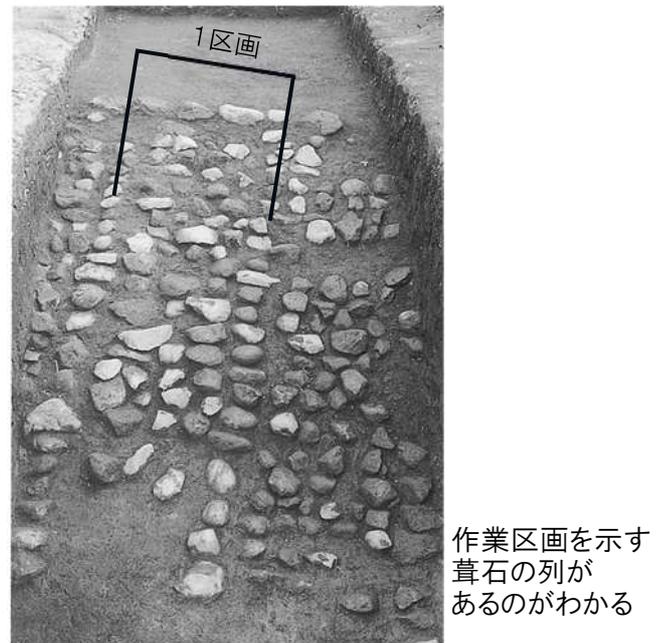
- ・5世紀末の築造。墳丘長96m、外周溝まで含む全長188m、全幅149m。
- ・墳丘の周囲に内堀、内堤、外堀、外堤、外周溝が設けられ、内堀の中には4つの島(中島)がある。
- ・墳丘は三段築成で、各段には葺石が施されている。上段・中段のテラス縁辺には円筒埴輪列がある。
- ・内堤上に形象埴輪配列区が2カ所ある。

### ◎八幡塚古墳の葺石の特徴

- ・石を土に埋め込んで設置している(積み石ではない)。
- ・上段、中段、下段と徐々に葺石の密度が低くなる。
- ・築造時に葺石の作業区画があったようで、1区画の幅は平均1m程度である。

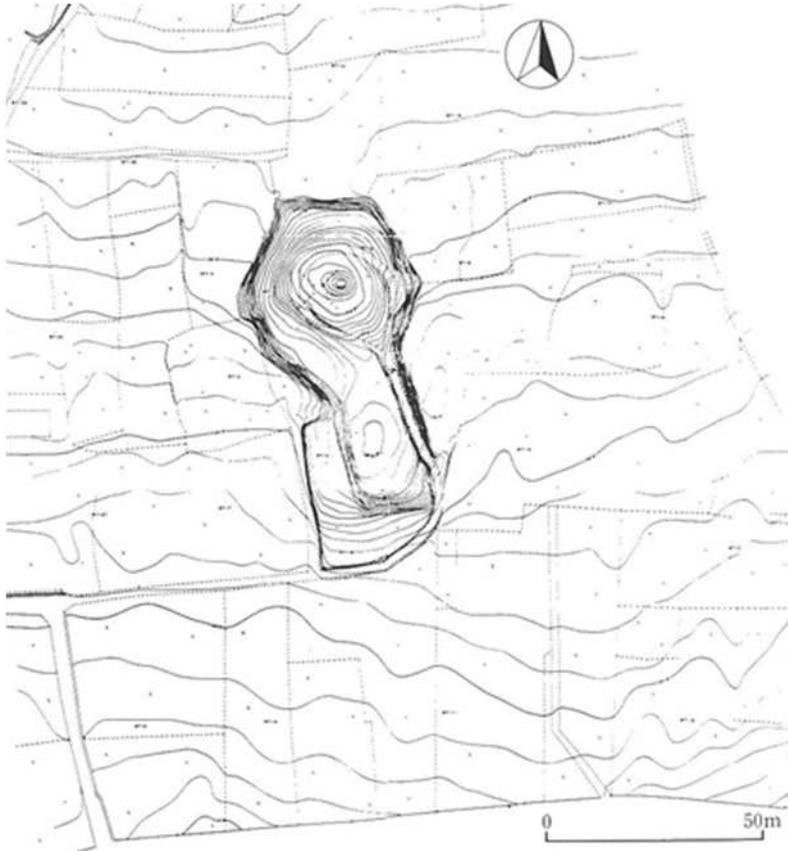


後円部南のくびれ部分の全景  
(東側から撮影)  
昭和55(1980)年調査時の写真



墳丘下段の葺石の状況  
(西から撮影)  
昭和55(1980)年調査時の写真

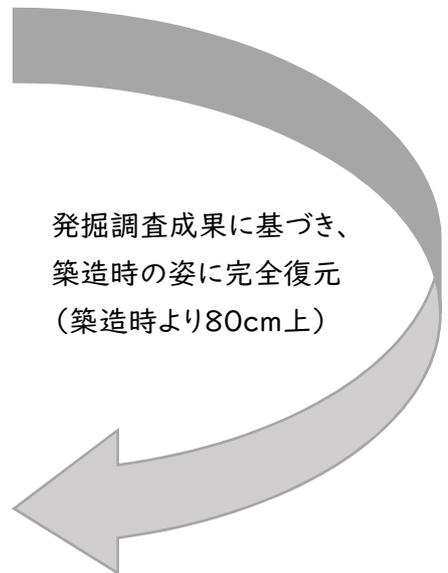
## 2. 八幡塚古墳 復元整備：平成8(1996)年度～平成11(1999)年度



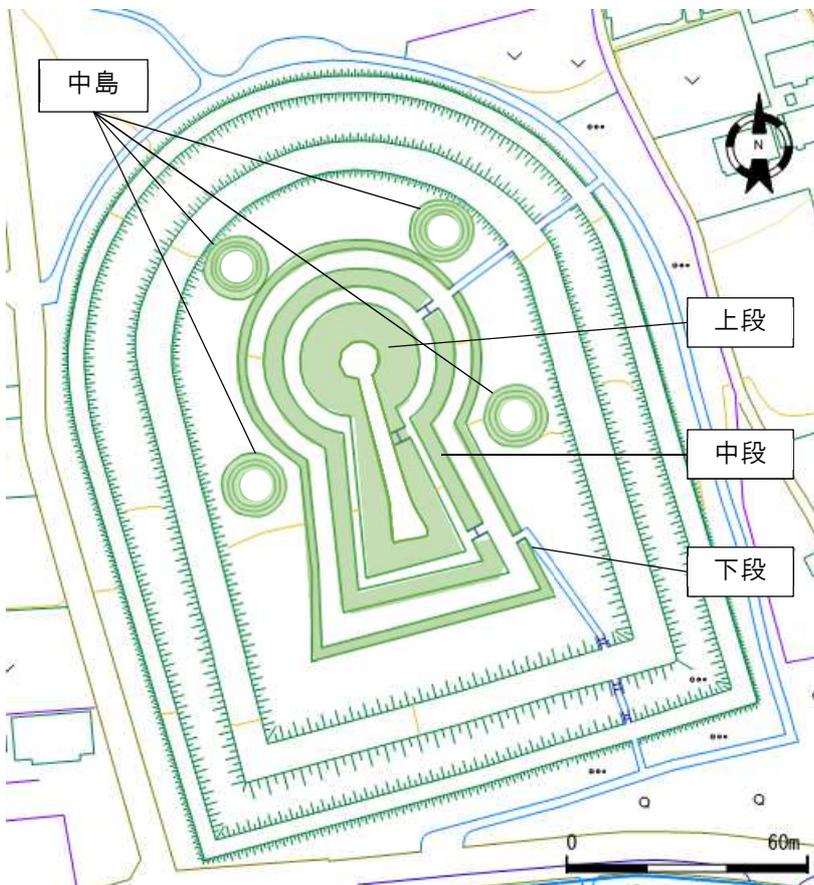
復元整備前 平面図  
平成7(1992)年地質調査時の位置図を加工

### <整備前>

- ・墳丘の周辺部や上部は切り崩されていて原形を大きく損傷
- ・堀など凹み部分は土や火山灰など堆積物で全体が埋没



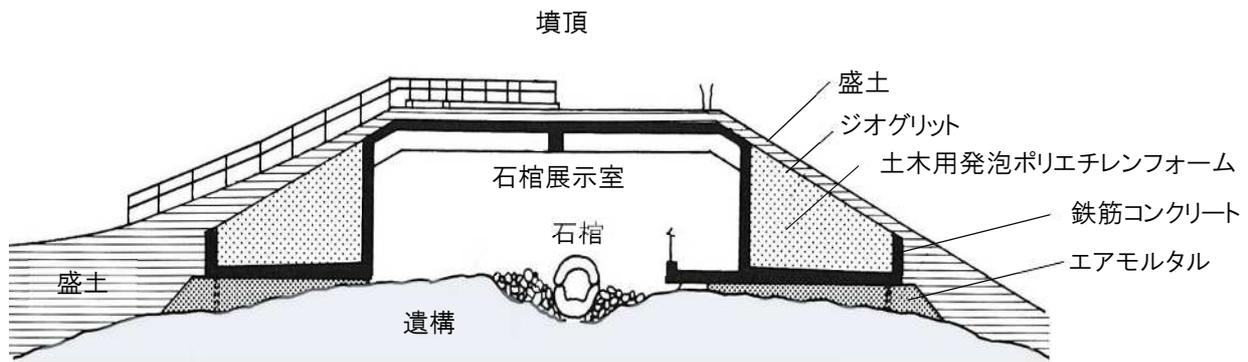
発掘調査成果に基づき、  
築造時の姿に完全復元  
(築造時より80cm上)



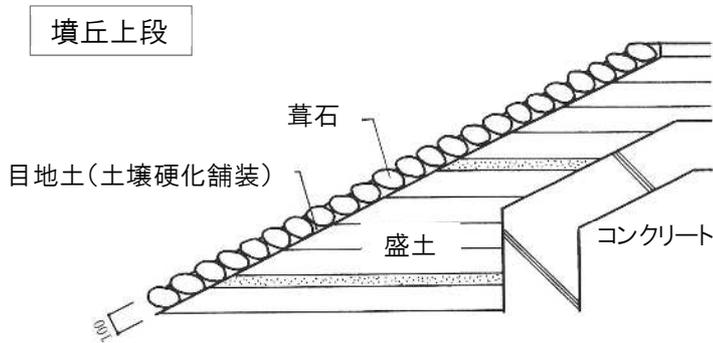
復元整備後 平面図  
令和6(2024)年都市計画基本図(白図)を加工

### <復元整備>

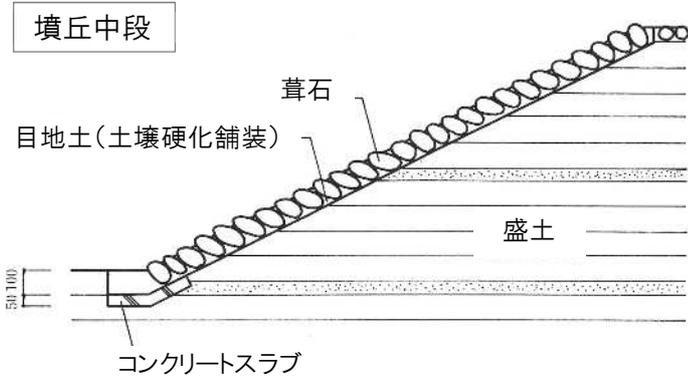
- ・墳丘、中島、内堤、外堤は古代工法である「人力による版築」で盛土
- ・墳丘及び中島の法面には、すべて「葺石」を施す
- ・墳頂部に、石棺を露出展示し、回廊式の展示室を設置
- ・水のない空堀であったことから、内堀、外堀および外周溝には野芝



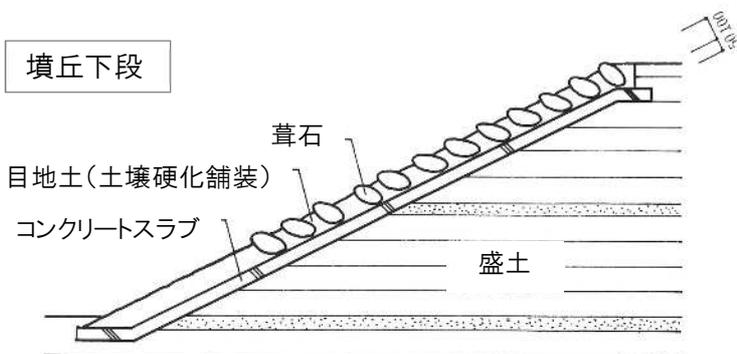
墳頂(石棺展示室)・墳丘上段 断面図



墳丘上段



墳丘中段



墳丘下段

法面葦石整備模式図

削平の大きかった墳頂部には石棺を見学できる施設(石棺展示室)を整備している。この施設は鉄筋コンクリート造で、遺構に接する基礎部分は一般的なコンクリートの1/3の重量のエアモルタルを使用している。施設周囲は軽量かつ高強度で耐熱性の高い土木用発泡ポリエチレンフォームを埋設し、盛土との間には滑りを防止するジオグリッドを施工している。

法面の表層部は、盛土の上に目地土(土壌硬化舗装)を施し、そこに葦石を埋め込んでいる。

葦石の密度が低くなる中段では、根固めのため、最下部にコンクリートスラブを打設している。

下段および中島法面については、石材の密度が低く強度不足が懸念されるため、葦石の落下を防ぐように法面全体にコンクリートスラブを打設し、その上に目地土(土壌硬化舗装)を施し、葦石を設置している。

### 3. 八幡塚古墳 保存修理：令和6(2024)年度～

#### ■八幡塚古墳の損傷状況

葺石の密度が低い下段、日照時間が短い北側、目地土の施工区切りを中心に、目地土に亀裂や剥落、葺石の落下などの損傷が多く見られる。

#### ■保存修理の方針

八幡塚古墳の墳丘や中島は平成期に復元したものであるが、整備から四半世紀を経て、地域に親しまれ、地域固有の風景の一部となり、復元した古墳自体が価値を持ちはじめている。そのことを踏まえて、復元された古墳をそのまま活かす方法で保存修理を行う。

#### ■修理箇所

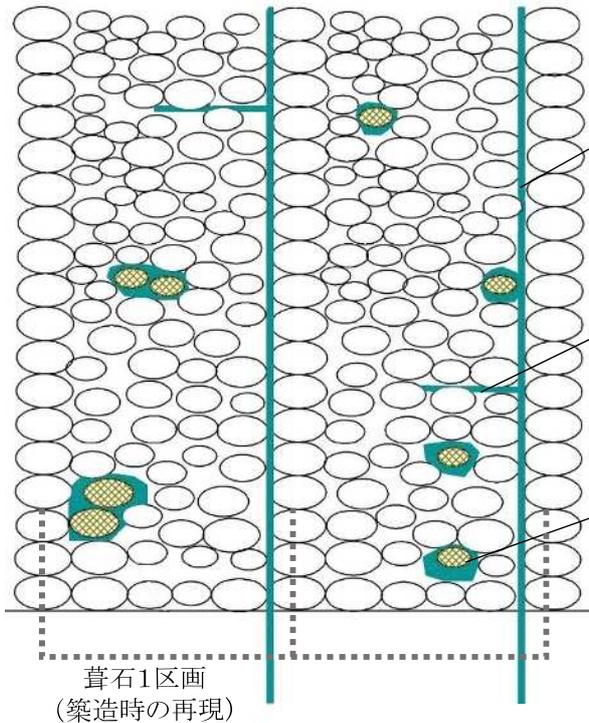
令和6年度は、墳丘上段部で目地土にできた亀裂、やせた目地土を埋める修理を実施中である。来年度以降、葺石の落下が著しい下段や中島の表層部の解体修理等を予定している。



葺石の密度の低い下段での葺石脱落  
令和4(2022)年撮影



目地土の区切りにできた縦の細い亀裂  
令和4(2022)年撮影



#### 細長い縦の亀裂

復元整備時に目地土を打設する作業の区切りであった場所に細長い縦の亀裂が発生している。

#### 目地土にできた亀裂

葺石と葺石の間の目地土が剥落したり、亀裂が発生している。

#### 緩みがある石

葺石周辺の目地土に亀裂が入り、葺石に緩みが出ている。

葺石1区画  
(築造時の再現)

修理箇所模式図

#### ◀ 文化財を大切に ▶

◎古墳にはよじ登らないでください。葺石落下の原因にもなり、大変危険です。

(古墳が古代人の「お墓」であることを意識すると、古墳の見方が変わります。)

◎かみつけの里博物館では八幡塚古墳など古墳のガイドをしてくれる仲間を募集しています。

興味のある方は「かみつけの里博物館ボランティア会」について博物館にお問合せください。

史跡保渡田古墳群 八幡塚古墳保存修理について  
令和6年度 高崎市教育委員会文化財保護課